

その一 <序>

季刊誌『支縁』No.2 (2013年2月3日号 4頁)

午後2時46分、荒廃がすごいのです。見渡す限り、がれき、崩れた家屋、震災の爪痕がどこまでも続きます。石巻市でも4千名近くの人々が犠牲になりました。「恐懼(おそれ)と陷阱(おとしあな)また暴行と滅亡我らに來れり。わが民の女の滅亡(ほろび)によりてわが眼には涙の河ながる」(哀歌 3:47-48 『文語訳』)。

津波は石巻市牡鹿半島の北東にある笠貝(かさがい)島を襲いました。高さ(遡上高(そじょうだか))は43メートルです。明治三陸地震を上回ったのです。山の樹木も海におおわれ、木々もだいなしになりました。田んぼにも自動車などが串刺しになっています。日本で一番おいしいカキ、リがとれる万石浦湾で生活する漁業の家も冠水でつかってしまいました。

山からの水が田んぼの稲などを育てます。積み重なった葉っぱが良い土を作ります。きれいな水がおいしい作物を作ります。無農薬、有機の土から出る排水が川となり、海に注がれます。「川はみな海に注ぐが海は満ちることなく どの川も、繰り返すその道程を流れる」(コヘレト 1:7『新共同訳』)。自然は循環しています。山から海へ行き巡り、海洋で蒸発し、雨となってまた山に降り注ぐのです。

地球が誕生してからずっと自然界の生命もお互いに縁があります。肉食動物によって草食動物が食い尽くされなかったのはどうしてでしょうか。草が地球のいたるところにあってありつけたからです。胃袋の大きい牛、羊、うさぎなどの草食動物はたくさん子供を産みます。反芻する生き物の胃には特別な微生物がいます。消化に役立つ微生物と助け合って生き延びてきました。肉を貪る獣が襲いかかり、草食動物の数が少なくなります。

すると餌がなくなり食う獣が減ります。一方、おそろしい獣がいなくなるといつしか食われる小動物の数が増えたりします。何世紀も繰り返されてきたのです。

その二 自然と共に生きる

季刊誌『支縁』No.3 (2013年5月3日号 4頁)

自然は人間が恩恵を受ける源です。ところが、田山湾はお金を儲ける所になってしまいました。食欲を満たすために農薬、成長させるためにホルマリン、能率のはかどる機械類を使います。食べる食物の安全など一切考えません。人間が自然界の何よりも偉いかのように振る舞います。里山にいたスズメやミツバチが少なくなりました。夕方になると空いっぱい飛んでいた小さな虫ユスリカもいません。食べる虫がいなくなったツバメも消えつつあります。

東北地方も日本の他の地域と同じように、海の近くの沼地がなくなりつつありました。住宅のため更地になったり、大きな水田にするために自然環境が変わりました。ですから津波が襲った時、海から40キロ離れた奥地にまで水が覆ったのです。海岸や河口の湿地を住みかにするヒヌマイトンはどうなったのでしょうか(1)。神戸から二年間訪問していますが、出合えません。温暖化により、北へ移動していったトンボ、蝶の住みやすい居場所がなくなりつつあります。

ヒヌマイトトンボ

人間に地球を治めるようにという神の言葉があります。「神は彼らを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ』2)。「従わせよ」[ヘブライ語カーヴァシ]や、「支配せよ」[ラーダー]が使われています。ラーダーは「(羊の群れ)を導く」(エゼキエル 34:4『新英語聖書』)にあるように暴力的に抑えつけるのではありません。3)人間は自然をやさしくお世話せねばなりません。だが、利得のため、公害、汚染、傲慢な支配によってだいなしにしてきました。自然と共に生きる原点に帰りましょう。

- 1) 沼地などの減少により生息地がせばめられ、絶滅危惧種に指定されているイトトンボ。
- 2) 創世記 1:26-28。
- 3) 『聖典と現代社会の諸問題』(樋口進 キリスト新聞社 2011年 76, 77頁)。

その三 自然と共に生きる

季刊誌『支縁』No.4 (2013年8月10日号 4頁)

東日本大震災の年、宮城県石巻市牡鹿半島を訪問しました。シカの名前が至るところにあります。アイヌの人は鹿がたくさんとれるとカムイ(アイヌ語「神」)に祈りました。4) リアス式の海岸線は津波で家、命、仕事はすっかり流し去られています。案内くださった阿部捷一氏はかつて地域の小学校の校長です。沖から半島を見ますと、緑豊かな山並みです。

カエデやコナラなどの広葉樹が繁っています。森に入ると、腰まで落ち葉に埋まるほどです。落ち葉の下には長年にわたり積み重なってきた腐葉土があります。カブトムシ、クワガタムシがもぐっているのをみつけようと手をいれると、キノコの臭いがします。

宮城県気仙沼(けせんぬま)湾で「森は海の恋人」の運動をすすめている畠山重篤(しげあつ)さんがいます。衰えた海の力をよみがえらせるために、海に注ぐ川、そして上流の森を大切にしなければならぬことに気づかれました。

湾に注ぐ大川(おおかわ)上流の森(室根山(むろねさん))に苗を植えます。1989年より50種25万本の広葉樹を子供たちといっしょに植え始めました。山村に住む歌人熊谷龍子(りゅうこ)さんの「森は海を海は森を恋いながら 悠久(ゆうきゅう)よりの愛紡(つむ)ぎゆく」という一首から生まれました。5)

耳を木にあててみると音がします。生きています。詩は樹木を語源としてまさに歴史の中で流れているような響きがあります。

右側 畠山重篤夫妻ご自宅にて 左側 村上裕隆事務局員 2012年12月18日 山本智也撮影。

私たちは自分勝手な生き方をして自然をこわしてきました。故郷を忘れた放蕩息子です。「ここを出て父の家に帰り」6)とふるさとの自然を慕う息子にとり、帰るところは森です。森であるエデンの

園には「命の木」と「善悪の知識の木」がありました。7) 森林を守るか、ダムを造るかの迷いを人間は繰り返してきています。東北でもシカが増えて困っています。「命の木」とは、森の苗を大切に、自然の「生態系」を考えます。一方、「善悪の知識の木」とは、自然を支配するヒトの「生命」を大切に考え、シカの数減らさざるを得ません。自然の「生態系」それとも人間の「生命」のどちらを先に考えるべきでしょうか。「田・山・湾の復活」とは両方を考えながら、みんながそうだとあらずく道を開きます。他の生き物といっしょにつながりをもって自然と共に生きていくのです。(次号に続く)

4) 拙論『牡鹿半島 聞き取り調査(4)』神戸国際支縁機構 2011年。

5) 『歌集・森は海の恋人』(熊谷龍子 北斗出版 1996年)。

6) ルカ 15章 18節『新約聖書 柳生直行訳』(新教出版社 1985年)。

7) 創世記 2章 9節『新共同訳』。

その四 白砂青松

季刊誌『支縁』No.6 (2014年2月15日号 4頁)

今から約120年前のことです。石川啄木は白砂青松(はくしゃせいしょう)で書きました。「砕けてはまたかへしくる大波のゆくらゆくらに胸おどる洋うみ」と波打ち際の波しぶきに感情が高まった詩情を残しています8)。

1927(大正2)年には、北上川河口から東に万石浦水道まで4kmの砂浜に約126mも松林が続いていたことが観光案内に残っています。ハンモックや帽子を無料で貸しています。海辺の店で飯一膳2銭、酒一杯2銭、漬物一皿2銭などと紹介。

3・11で、高さ4mの堤防と、20mの防潮林の松並みを超えて、津波が渡波町を襲いました。1897(明治30)年に、植えられたクロマツは震災でどうなったのでしょうか。

震災直後、地盤沈下で、壊れた長浜幼稚園(万石浦幼稚園に合併)付近のクロマツはヘドロを呑み込んで真っ茶色でした。長い年月、飛砂(ひさ)、台風、霧などから渡波を守ってきました。海岸林は堤防

と違います。津波を止めることはできませんが、速度を弱めます。

チリ津波(1960年)は日本を襲い、三陸で142名が犠牲になりました。日本まで17500kmも離れています。それが22時間で到着しました。津波はつまり時速約730kmということになります。ジェット機並みの速さです9)。

キャプション 長浜海岸 奥野理恵(第25次)

渡波伊勢町の遠藤トシ江さん(83歳)は「新幹線より速くて、逃げられないちゃ」と恐怖体験を語っています。防潮林は海岸際で津波をゆるめて人々が逃げる時間のゆとりの役割も果たしました。他にも、津波の引き波で海に持って行かれそうになった時、枝に服が引っかかって助かった人もいます。

石巻市長面(ながつら)や、仙台市海岸公園、岩手県の名勝7万本の「高田松原」の方は木が倒れ、流木化しました。海のもくずとなり、何も残っていません。津波は襲い掛かり、幹を折るにとど

ならず、

根元から引きちぎり、根がむき出しになっています。岩手県陸前高田市は奇跡的に一本残った松を復興のシンボルとしています。

松などの針葉樹は根が約 45 センチと浅く、天災には弱いのでしょうか。代わりに広葉樹を植えてはどうかと、広葉樹林の植樹をする運動が東北各地で起こりました。

長浜の海岸林は「マツの枯死(こし)が目立つようになった」と研究者にも見捨てられました 10)。

キャプション 渡波 長浜海岸 震災前 震災後

不思議なことに、長浜の茶色になった松林は死んでいませんでした。2 年を経て、再び新しい緑の葉が繁り始めました。生命力に驚きます。なぜでしょうか。長浜のクロマツの背景と展望を次号で探ります。

8) 1902(明治 35)年 5 月 28 日、歌人石川啄木—1886–1912 は 16 歳[盛岡中学五年生]の時、修学旅行で石巻市渡波長浜に立ち寄った際、記しました。

9) 『津波災害』(河田恵昭 岩波新書 2011 年 40~41 頁)。

10) 『海岸林との共生』(中島勇喜・岡田譲 山形大学出版会 2011 年 グラビア 13 頁)。

その五 「遡上高」(そじょうこう)

季刊誌『支縁』No.7 (2014 年 5 月 15 日号 4 頁)

津波は「遡上高」があります 11)。

6,7mの防波堤と、20mの松林のどちらがふさわしいか、じっくり考えるべきです 12)。

長年、厳しい自然と真っ向からぶつかりながら、人間の営み、田・里山・里海の生き物を守ってきた先人の知恵を切り捨ててしまっははいけません。

なぜ長浜の松林が残ったのか、30 数回訪問してわかったことがあります。ひとつに、海水浴のすべての砂が松林の根元付近を覆ったのです。次に、長浜海岸のクロマツは密集しすぎていませんでした。100 m²に 18 本ずつの間隔でゆとりがあります 13)。すき間に、カワラナデシコ、ハマエンドウ、ネジバナが生い茂っていたと仮設住宅の今野かづ子さん(64 歳 松原町 現在防波堤工事中)は語ります。林務作業の人件費もあって下草刈りや枝打ちの手入を小まめにしていなかったことも功を奏しました。太い松と細い低木が棲す み分けて共生しています。人間生活も同じです。人口が集中し、摩天楼の都会だと窮屈で、ストレスを感じやすくなるのと同じでしょう。つまり一見、松は邪魔者の低木雑草などに松自身が我慢することによってたくましいマツになっていたのです。人間は過保護によって成長が阻まれるように、松だけの単層群落にするとひ弱になってしまいます。

キャプション 長浜を襲った津波 奥野理恵(第 25 次)

防潮林である松林は景観、冬の寒風、津波の速度をゆるめる役割を果たします。無機質な防波堤、防潮堤は 20mを超える津波にはまったく無力です。コンクリートの予算に億単位をかけても住人の心に安らぎはもたらされません 14)。

地域のみんなでスコップひとり一杯の土をもって来るのです。1mほどの盛り土にします。その上に松林を移動します。自分たちの手で海岸林を造るのです。ヨモギ、ヤブカンゾウ、フキ、シドケ、ハマニンニクなどの下草や砂草植物、トベラ、マサキなどの低木、ショウロなど微生物も植栽地を支えている大切な構成メンバーです。

海岸林から無機塩類が湾に流れ出、植物プランクトンが育ち、魚の餌となります。里海がよみがえります。美しい自然の回復は安心、平安、誇りをもたらします。社会も同じです。社会福祉がなければ生きていけないような高齢者、障がいをお持ちの方、シングルマザーたちを切り捨ててはいけません。共生して織りなす結びあわされた社会こそが「ふるさとの木によるふるさと」です。

- 11) 亀山紘「東日本大震災における死」(『死』を考える)講座 神戸新聞会館 2012年4月23日)。
- 12) 「防潮林の津波に対する効果と限界」(首藤伸夫 海岸工学講演 論文集 45 1985年 465-469頁)。
- 13) 「東日本大震災における公園緑地等第一次現地概査」報告 2001年5月16日 (社)日本公園緑地協会。
- 14) 「東北追悼と復興の祈り」(大國龍笙宮司談話メモ 阪神宗教者の会 2013年)。
田山湾の復活 『石巻かほく』(2013年11月14日付)。『朝日新聞』(2013年11月2日付)。

その六 里山とは機構である

季刊誌『支縁』No.8 (2014年8月10日号 4頁)

自然を耕し、雑木林、ため池、田畑を人間はつくってきました。里山・田園・里海は循環した「機構」つまりシステムです。動植物などの生態、土壌、風土だけではなく、人間の手による農具、石仏、薬草などが関わっています。人が土を耕作を通して築いてきた landscape 風景です。

日本に豊かにある資源は水です。日本のふるさとと言えば、森から清水が湧き出て、田園を潤します。生活に必要な水、農耕、治水氾濫にどう制御するか先人はいつも守ってきました。

「春の小川」(高野辰之作詞・岡野貞一作曲)は小学校で歌います。文部省は当初、国がつくったとし、を口外しないよう指導していました。高野、岡野の二人は「ふるさと(兎追いしかの山…)」、
「紅葉(秋の夕日に 照る山紅葉…)」、
「春が来た(春がきた 春がきた…)」、
「朧月夜(菜の花畑に入り日薄れ…)」などのメロディも讚美歌 15)から明治、大正初めにつくられました。

春の小川は、さらさら行くよ。
岸のすみれや、れんげの花に、
すがたやさしく、色うつくしく
咲けよ咲けよと、ささやきながら。

それも日本人に里山を思い浮かばせる名曲です。

春の小川とは、すみれやレンゲが岸边にあることから、奥山や街中ではありません。人里を流れる川です。上流部と異なり、人が水利を考えて手入れしている田園の用水路です。道も、山道とちがいます。市街地のように真っ直ぐなアスファルトでもありません。田畑の曲がりくねった境界線が道です。春の小川は田んぼに水を届けます。水源は河川、ため池などの堰から引いてきます。

キャプション 渡波際前の用水路づくり (第10次) 2012年2月 宮元輝君

用水路は上下の勢いある河川と異なり、横向きの小川で毛細血管のように里地をくまなく潤します。ため池も作り、日照りに備えます 16)。

キャプション 渡波堤のため池 右側 亀山繁氏(第5次)

里山は全世界にあります 17)。日本と同じように、水車、炭焼き小屋があつたり、雑木林 copse《カープス》があります。春がくるとブルーベル、イチリンソウが林床一面に咲きます。昆虫が花密に群がり、野鳥も集まります。

「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた」18)。「耕し」(ヘブライ語 アーバド「仕える」の意)、つまり耕作することから人類は始まりました。「守る」(シャーマル「見守る、救う、世話する」の意)ことを委ねられたわけですから、里山を損なわずに、人が安らぐ環境を守る責任があります。

15)『唱歌と十字架—明治音楽事始め』(安田寛 音楽之友社 1993 年)。

16)「平成 9 年度 農村振興局調べ」兵庫県岳で 4 万 7,596 か所、全国には計 210,769 か所。江戸時代、ため池と 300 万平方メートルの田園が水害から守った。

17)『里山を考える 101 のヒント』(日本林業技術協会 東京書籍 2000 年 48-49 頁)。

18) 聖書 創世記 2:15。

その七 里山

季刊誌『支縁』No.9 (2014 年 11 月 15 日号 4 頁)

世界的な食料不足が日本に忍び寄るとき、食べ物を輸入に頼っている日本の暮らしは危なくなります。

「少欲知足」を忘れていきます 19)。日本では、食料消費全体の 2 割にあたる約 1800 万トン捨てられています。このうち、売れ残りや賞味期限切れの食品、食べ残しなど、毎日 3000 万食が捨てられています 20)。

余っている所と、不足している地域に開きがあります。人と里山がうまくかみ合わなくなった時期と同じ頃に感謝の心を忘れるようになりました。

キャプション イラスト奥野理恵作

「昔々おじいさんは柴刈りに」という民話があります。花咲かじじいや、カチカチ山、桃太郎などの昔話には山が必ず出てきます 21)。柴刈りの「柴」とは雑木林に折れたり、落ちていた細い木や枝です。炊事や暖房の「たきぎ」になります 22)。木の実、キノコ、山菜もあり、雑木林は人と自然をつなげる役割をしてきました。奥山と里山はちがいます。里山は人が何世紀にもわたって農夫が手入れしてきた交流の場です。里山と奥山の境界線を「峠」と言って、上と下を区別します。

奥山の高木の花ヤマハンノキ、ミズナラの色は地味です。人間、昆虫も見向きもしません。一方、人による雑木林の桜、ホオノキ、ミズキにはいろいろな生き物がいます。トチ、クルミ、クリなど。ドングリ、果実もあります。リス、イタチや、小鳥、昆虫が飛び交い、食べる実が豊かでした。

里山の集落には、田に水を届ける用水路(春の小川)、ため池、雑木林の三つが揃っていました。

高度経済成長期に、できるだけ速く湾で水を流すコンクリート製の U 字溝が登場します 23)。河川から用水路へ流れた魚などの生き物が水田と自由に行き来ができなくなります。サンショウモ、タガメ、コウノトリなどが田んぼから消えました。水中の生き物(植物・昆虫・動物)と陸の生き物が切り離されてしまいました。田は微生物、イトミミズなどによる分解浄化作用もできなくなりました。

キャプション 用水路(春の小川) 水田と用水路の間には樋(とい)

乾田になり、高額な農業用機械が田に入ります。農薬、化学肥料は生態を狂わせました。生産

を高める農業経済が日本中に広がります。人は自然に溶け込むより、反収の経済を優先します。人間はもはや生態系の一員ではなくなりました。

したがって、里山の心の原像と引き換えに、儲けに走ったため、若者はふるさとに魅力を感じなくなり、都会に出ます。

19) 『仏遺教経(ぶつゆいきょうぎょう)』(岩波書店 1936 年)にある「欲を少なくして足ることを知る」;「もっとも、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。」(聖書 I テモテ 6:6)。

20) 世界では 8 億 500 万人近くが飢餓。食べられるはずなのに「食品ロス」は 500~800 万トン。コメの収穫量(2012 年約 850 万トン)とほぼ同じ量。一方、発展途上国の 8 億 500 万人が十分な食糧がない。(2014 年 9 月 16 日 国連食糧農業機関 FAO);毎日新聞 (2014 年 9 月 17 日付)。

21) 5228 編の昔話の内、山に関係する民話は 32 パーセント。『全国昔話資料集成1』(佐藤義則 岩崎美術社 1974 年 44,111 頁)。

22) 1929[昭和 4]年に、日本国内で燃料として最初に LP ガスが使用された。1963[昭和 38]年頃からタクシーの燃料として使われ始め、現在では国内タクシーの約 80%が LPG 車。

23) 高度経済成長[1954 年 12 月-1973 年 11 月]

キャプション 田山湾の復活 「石巻かほく」(2014 年 12 月 2 日付)

その八 防潮堤

季刊誌『支縁』No.10 (2015 年 2 月 21 日号 4 頁)

2013 年 3 月、和歌山大学講師間森誉司<<ルビ まもり たかし>>さん、看護師田平夢宇夜<<ルビ たびら むうや>>君と岩手県南東部の大船渡<<ルビ おおふなと>>を訪問。大船渡は太平洋に臨む約 4 万人の港湾都市。津波被害で死者 340 人、行方不明 80 人に及んだのは巨大防潮堤がこわされたからです。震災から 2 年も経ているのに、海岸保全施設(護岸や堤防、防潮水門、防潮樋門)が流れ、無残にも崩れていました。

キャプション 大船渡の破壊された防潮堤 2013 年 3 月 18 日 津波から守る防潮堤

人々が住むのは川が海に注ぎ込む扇状地です。東日本大震災の津波は河川の堤防も乗り越えて、おびただしいビル、家をころがしました(24)。昔から津波はたくさんの人をのちを奪ってきました。1933 年、昭和三陸津波では岩手県宮古市田老地区では 559 戸の内 500 戸が流されました。人間はなんとか被害をなくそうと闘ってきました。防潮堤、防波堤は最後の砦のようです。1966 年、世界最大の防潮堤が田老町に建てられました。車から見上げるほどの高さ 10 ㍎、長さ 2600 ㍎の分厚いコンクリートできています。現代の「万里<<ルビ ばんり>>の長城」と言われ、海外からも人々は見にやってきました。住民は安心し、どんどん家を建て続けました。「防災の町」として国の内外に知られるようになります。

しかし、東日本大震災の津波は他の三陸沖の防潮堤と同じように土台からなぎ倒したのです。田老町は津波に吞まれ、死者 179 人、行方不明者 6 人です。

キャプション 釜石防潮堤倒壊 役に立たなかった防潮堤

立派な防潮堤がかえって仇になりました。津波がやってくるのが見えないばかりか、音も聞こえなくしました。避難経路があっても安全と思い込んでいる人間は逃げようとしませんでした。2 列もある防潮堤により、万全と信じていたのでしょう。防潮堤は人に慢心をもたらしたのです。

二番目に、防潮堤は水質を悪くします。砂浜から運ばれる種々のミネラルを遮り、海の生き物の生態を変えます。リアス式三陸海岸はアマモの群生地です。クロソイ、ヒラメ、マダラ、ホッケなど 50 種類以上の稚魚が泥砂地のアマモ群落で育ちます 25)。アマモは水中にたくさんの酸素を出します。

防潮堤について次のように報じられています。「震災前は防潮堤が遮り、大船渡湾は底層で無酸素状態でした。ところが、震災後は深さによる水温変化が小さくなった。湾口内外の水温差もなくなり、低酸素状態も改善された」26)。

三番目に、前より高くしても無駄な試みです。「過去最大級とされるのは慶長三陸地震(1611 年)で、津波の高さ 21 メートルという記録もある。県はこうした津波の『発生頻度は低い』と判断。明治三陸(津波の高さ 14.6 メートル)や昭和三陸(同 10.1 メートル)など『数十年から百数十年に一度発生する地震』防ぐため、海側の防潮堤の高さを 14.7 メートルとした。」と報じられています 27)。

キャプション 現代のバベルの塔

現在、青森県から千葉県の東日本太平洋沿岸で巨大な防潮堤建設が行われています。その規模は、岩手、宮城、福島 of 東北3県だけで総延長約 370km です。約 8200 億円もかかります。高さは 10m 前後で、高い場所では 14m を超えています。東北3県の砂浜はすでに全体の 7% にまで減っています。

コンクリートですから寿命があります。せいぜい 60 年と言われます 28)。

キャプション 防潮堤

「彼らは、『さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう』と言った。」(創世記 11:4)。

「バベルの塔」のように巨大な公共事業は「田・山・湾の復活」には無縁のものです 29)。

24) 国土交通省: 東日本大震災における河川・海岸施設の被害及び 復旧, 国土交通省東北地方整備局河川部提供資料 2011 年。

25) 『日本経済新聞』(2012 年 11 月 4 日付)。アマモは水深 1,2 m に育つ海草の一種。稚魚のゆりかごとと言われる。海の生き物の産卵, 牡蠣(かき), ノリの養殖には絶好の環境である。

26) 『岩手日報』(2011 年 12 月 22 日付)。

27) 『読売新聞』(2011 年 10 月 19 日付)。

28) 「過大荷重による劣化と劣化判断」(松井繁之 土木学会論文集 第 374 号/1-6 1986 年 10 月), 「事業報告書」(一般財団法人 災害科学研究所 松井繁之共編)。

29) メソポタミアという言葉の意味は、「川のあいだの地域」当時の土木技術は、石から「レンガ」、漆喰から「アスファルト」に革新しており、前時代よりもはるかに高い建造物の建設が可能となっていた。

その九 食料自給率

季刊誌『支縁』No.12 (2015 年 11 月 1 日号 4 頁)

温帯モンスーンによる美しい山川, 照葉樹林の落ち葉からにじみ出る清流と空気, 肥沃な土に

植物相と動物相が織りなす環境は豊かな産物をもたらしてきました。

神戸国際支縁機構が耕作する宮城県石巻市渡波、神戸市西区友清の田畑の周囲を見渡しますと、日本の農業の実態がわかります。農家の高齢化、後継者不足、農業所得の減少は若い人々の就農を阻んでいます。2014年度の食料自給率はカロリーベースで39%です。アメリカ127%、フランス129%、ドイツ92%、英国72%です。日本の食料自給率は先進国の中で最低の水準です(30)。

キャプション 日本の食糧自給率の推移 (カロリーベース 農林水産省 2014年
各国の食料自給率(同))

自給率39%とは、海外から食べ物が入って来なくなると、6割の日本人が死ぬという割合です。また私たちの肉体の60%は輸入食品で成り立っていることとなります。外国の農家のために日本人は会社などで汗して働いています。つまりアメリカ、オーストラリアなどの食糧生産者のために労働して、先祖から受け継いできた土地は生産する場所ではなく、商品として売買されています。地球全体の食料は年間24億トンです。しかし、発展途上国の8億500万人が飢餓、アフリカだけでも栄養不良で5歳になる前に命を落とす子どもの数は年間500万人です(31)。一方、日本では賞味期限などのため毎日3000万食を廃棄しています。グローバル企業の貪欲な利益のために食糧輸入などマネーゲームにより食べることができない子どもが増えています。日本も例外ではありません。

キャプション 人間と自然の関係 共存を模索し実践

月に一回しか宮城県石巻市渡波の農作業に行かない私たちにとり、雑草対策は大きな課題です。2011年から渡波、沢田での米づくりは地元の農家の助けがないと雑草がはびこってしまいました。2013年

以降、同市の新千刈、際前で無農薬、有機でやってみました。雑草が生えにくくするため、田植え時に深水にします。化学肥料、除草剤はいっさいやりません。保田ぼかし(無農薬、有機による乳酸菌こやし)を神戸でつくっておき、石巻に運び、施すだけです。

手による田植え、稲刈り、天日干し、昔ながらの稲こき機を使う脱穀にこだわります。

2015年度も、ネオニコチノイド系農薬を使わない「ツヤヒメ」の苗を宮城県大崎市の千葉富男氏から購入しました。30センチ間隔で万石浦幼稚園(北川禮子園長)の園児たちと植えます。保田茂先生(コウノリ野生復帰推進連絡協議会会長)はコウノリ復帰のために、兵庫県豊岡市などで手間がかかる無農薬栽培をさがしてきました。機構の若者たちにも農薬に頼らない農法を2012年から指導しています。コウノリは一日に約500グラムの餌を食べます。イトミミズ、ユスリカ、ドジョウなどが田んぼにいたことが決め手です。今年もイヌビエなどの雑草も月に一度の除草ですみました。

今、日本の農業は瀬戸際に立たされています。環境、食物も危機に直面しています。

キャプション 石巻市沢田 日本の農地をつぶさない

TPP=環太平洋パートナーシップ協定により、農林水産物の2328品目の81%の関税はなくなります。野菜、果物の1195品目は即時撤廃します(32)。関税がなくなると、海外からの農産物は日本中の売場でだんぜん安く、国産の農産物は作っても売れなくなります。つまり安いコメ、麦もどんどん洪水のように入ってきます。コメだけでなく、野菜のニンジン、ジャガイモ、タマネギなど保存のきく野菜も国産は太刀打ちできません。また遺伝子組み換え、表示義務もなくなり、食品添加物の制限もなくなり、検査なしの除草剤まみれの食品を日本人は食べなければなりません。「輸入

モノの方がやすい」に惑わされてはなりません。企業のために円安政策ですから、小麦、植物性油脂にしてもむしろ輸入価格はあがっています。さらに、米国と同じ「チェック・オフ制度」を日本でも政府は導入します 33)。すると追い込まれている農家からお金を集めるのです。農産物の消費拡大、輸出促進のシステムをすすめ

るためです。TPPが目指す経済利益優先はますます食糧自給率をゼロに追いやります。安全で、健康的な、おいしい自産自消「自分で作って、自分で食べる(消費する)」の国に取り戻してはじめて、子々孫々に豊かな風土を残すことができます。

「荒れ果てた地、そこを通るすべての人に荒れ地と見えていた土地が耕されるようになる。そのとき人々は、『荒れ果てていたこの土地がエデンの園のようになった。荒れ果て破壊されて廃虚となった町々が、城壁のある人の住む町になった』と言う。」(エゼキエル 36:34-35)。

30) 「食糧需給表」(農林水産省 2014 年度)。

31) Food and Agriculture Organization of the United Nations 2014。

32) 『日本農業新聞』(2015 年 10 月 20 日付)。

33) 『毎日新聞』(2015 年 10 月 18 日付)。

その十 人口減少

季刊誌『支縁』No.13 (2015 年 11 月 3 日号 4 頁)

国連食糧農業機関(FAO)によると、2015 年、地球人 70 億人のうち、約 7 億 9500 万人が飢餓・栄養失調に直面しています。富豪 62 人の資産＝貧困 36 億人分。裕福な 1%と世界人口の約半数が経済的に厳しい格差で見捨てられています。34)。日本は経済大国と言われます。しかし、餓死や孤立死など絶えることはありません。2013 年 11 月、大阪市で 31 歳の女性がひっそり餓死していました。死後 1～2 ヶ月で発見されました。部屋の電気、水道、ガスはとめられ、冷蔵庫は空になっており、マヨネーズの空容器だけでした。厚生労働省によると、日本では 2014 年に 1697 人が栄養失調で亡くなっています。一日に 5 人弱の人が餓死しているのです。2015 年 10 月 5 日、宮城県石巻市の復興公営住宅で 60 代男性の孤独死もありました。入居者の高齢化は放っておくことができません 35)。

キャプション 高齢者の万引き 『石巻日日新聞』(2015 年 11 月 14 日付)。

2015 年の国勢調査によると、石巻市の人口は 14 万 7236 人。減少に対して、観光、移住、一次産業の担い手を増やすことが急がれています。被災地だけの問題ではありません。住人がいなくなる、仕事なくなる、子どももいなくなるという「消える」ことと、土地があまる、住宅があまる、学校があまるという「余分」の二重苦があります。震災トラウマと復興ストレスです。「石巻には住む家がねえーから出て行くっちゃ」と耳にします。確かに復興住宅は 5 年しても、1 割です。相次ぐ再開発計画の白紙が騒がれます。

キャプション 石巻市の人口推移 『石巻日日新聞』(2016 年 1 月 20 日付)。

人がいなくなるとお店も姿を消し、大型量販店が増え、日本中どこでも見られる個性のない光景になります。震災前から核家族になり、石巻市の 1 世帯当たりの人数は 2.59 人です。介護、福祉、ケアが必要な高齢者が増えているのに、反比例するかのように介護者が減っています 36)。宮城県は 47 都道府県の中で介護者数は最下位です。「本当に困ってるべー、自分から困ってるなんて言えないのっ」と吐露する在宅被災者がいます。制度が差し伸べる手からどんどん漏れ落ちて

いる人々はどんなに周囲の環境が復興しても自分の力だけでははい上がれません。生きるいのちに対するやさしさが人口減社会を乗り切る力の源です。ワイシャツのえりのカラーは柔らかいですが、洗濯しても型が崩れないのは芯が入っているからです。社会の「芯」に相当する郷土のアイデンティティの見直しが必要です。里山 Satoyama (undeveloped woodland near populated area)・田園・里海といった自然との結びつきです。2011年7月、牡鹿半島の船越(ふなこし)、谷川(やがわ)、名振(なぶり)などを新免貢教授(宮城学院女子大学)、阿部捷一氏、佐藤金一郎氏とヒアリングしました(37)。名振では90戸の内、14戸しか残らなかったのです。海と向かい合って代々、漁、ホヤ、カキを営んできた村人にとり里海しか生きる術はないと訴えておられました。自然と共生する遺伝的特性が痛いほど伝わります。「漁師は海に関わらないと生きていけねえー」と言われました(38)。リアス式海岸には猫の額のように狭い土地しかありません。悲しいことに、限界集落であった牡鹿半島の復興に国は防潮堤を作ろうとしています。まさしく現代のバベルの塔であり、海と陸地を完全に分断してしまいました(39)。

被災地の震災失業、非正規化、福祉切り捨ては人のいのちを殺します。だれも置き去りにしてはならぬと良心がうずきます。巨額な土木、鉄道など輸送網、病院などの再建より優先すべきことを忘れてはいまいかと考えます。「死」を管理しない社会の実現へと大地が叫んでいます。「いのち」から「死」への過程が人為的、物理的、制度的に扱われてはなりません。人口減少歯止めへの防波堤が問われています。家族が「自宅」で成員が逝くのを看取るコミュニティへの回帰こそ「田・山・湾の復活」の基本です。

34) 国際NGO「オックスファム」； 2016年1月18日(『朝日新聞』2016年1月20日付)。

35) 震災の影響で住宅や生業を失い、義援金と貯金、年金でこれまで4年以上を過ごしてきたが、年月を重ねるごとに~~出費~~出費がかさみ、生活苦から犯行に及ぶケース。そのため、盗む商品も調理不要な惣菜類が多い。(『石巻日日新聞』2015年11月14日付)

36) 『河北新報』(2013年10月4日付)、2015年3月「石巻市高齢者福祉計画第5期介護保険事業計画石巻市高齢者福祉計画第6期介護保険事業計画」。

37) 拙稿「神戸国際支縁機構ヒアリング報告」(2)～(7)

<http://kisokobe.sub.jp/category/article/page/3/>

『希望の灯』(坂本忠厚編 石巻市教育委員会 2013年102～105頁)。

38) 拙稿「同ヒアリング報告」(3)名振コミュニティセンター。

39) 季刊誌『支縁』No.10(2015年3月4頁)。

その十一 「孤食」から「共食」へ

季刊誌『支縁』No.15(2016年5月15日号4頁)

「孤食」の時代とされています。少子高齢化、人口減少、第一次産業の衰退。過疎化の進む限界集落が増えています。被災地だけでなく、各地方のシャッター通りは何を物語っているでしょうか。日本の生活水準は諸外国と比較して裕福に見えます。高速道路の行き届いた整備、時間に正確な鉄道、ウォッシュレットの普及など、清潔・便利・快適さは海外からの旅行者にも豊かさを印象づけます。見た目は確かに立派です。オリンピック、原発再稼働、リニアなどが夢をもたらすと民

衆は刷り込まれています。たとえば、リニアは必要でしょうか。区間の 86 パーセントがトンネル。2004 年、上越新幹線を脱線させた地震M6.8 規模が起きたらリニアは大惨事になります。たいせつなものを忘れて、ひたすら走り続けているマンモス象みたいです。

経済的に豊かな生活が保障されると額に汗して働きます。耐震構造を誇る高層ビルに住む人々の生活は豊かでしょうか。高齢化社会にあつてしあわせとは何かを考えねばなりません。国連の定義として高齢化率が 7%を超えると「高齢化社会」、高齢化率が 14%を超えると「高齢社会」と言います。全人口に対する 65 歳以上の人口(高齢化率)で判断するならば、日本はもはや「高齢化社会」、「高齢社会」ではありません。「超高齢社会」です。40)

宮城県石巻市渡波に定期的に訪問させていただいています。63 回目です。自然との共生による農・林・漁の復興に仕えています。画期的な事業、運動、実績は何もありません。神戸から向かう若者たちの価値観が変わりました。「ボランティアは、能率・効率など**抜き**の人と人の触れ合いです。痛めつけられた人との出会い」です。「被災者を通して垂直の『活動』が『契機』となり、続けて現場に行く『関心』が芽生え、5 年を経ても継続する『価値』を見いだします」41) 寄り添う若者たちを待っている被災地の人たちがいます。若者たちは孤独死、孤立死が起きる震災復興の遅さ、停止、あきらめにくく然とします。知らんふりをして通り過ぎることはできません。石巻市で「あがつていきっちゃ」とお茶をすすめられる「共食」にはぬくもりがあります。都会の豪華、衛生的、洗練された接客マナーに支払う高額な料金では得られない価値があります。石巻の人と東北弁で話合っても、ほとんど若者は意味がわかっていません。しかし、わかることがあります。「いる」「共にいる」「共に食べる」という言葉ではない結びつきがそこにはあることを。

欲しいモノがすぐに手に入る、近場で楽しめる娯楽設備、お金さえ出せば味覚、視覚、聴覚などを満足させることができる都会には裏の顔があります。アリ地獄の格差、心の病、差別によるストレスが膿を出し、悪臭を放っています。一握りの権力者、富裕者、特権をもつ階層だけが楽しむ刹那的な享楽があります。コマーシャルを通して、人々は羨望のまなざしを抱くようにたえず仕向けられています。テレビは視聴者抜きに完結して放映します。スタジオ出演者の顔だけが流れる「小窓」は一種の同調圧です。「**官尊民卑**」の報道こそマインドコントロールの元凶です。42) つまりクリティックができないように従順に飼い慣らされています。お茶の間の番組から流される防腐剤入りのおいしくない高笑いを聞きながら、孤独に食事をする時代は不幸です。「共食」の世に変革しましょう。

40) 内閣府2015年版高齢社会白書 65 歳以上の高齢者人口は過去最高の3300万人(前年3190万人)。高齢化率が26%に上昇。2060年には、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上。

41)『クリスチャントゥデイ』(坂本直子 2016年5月6日付)。

42) 民意を偽造する請負人たち。『テレビはなぜおかしくなったのか』(金平茂紀 高文研2013年37頁)

43) 孤食 日本農業新聞e農ネットに「「孤食化」進む子どもの食事 朝食—中学生71%、高校生69%、小学生60% (2014年1月18日付)」

夕食で「孤食」があると答えた割合は、中学生が最も高く55%、次いで高校生が50%、小学生(35%)、未就学児(12%)となった。朝食、夕食を一人で食べる中学生が多い。『共同通信』:高齢者の孤食にうつる危険 独居男性は2.7倍(2015年10月27日付)。

7月10日、毎日新聞は報道しました。「自民党は今回、東北6県のうち秋田を除く5県で敗れた。与党は先の国会で環太平洋パートナーシップ協定(TPP)の承認を見送り、全国的にはTPPは大きな争点にならなかったが、第1次産業が強い地域では政権批判票につながったとみられる。…東北以外にも農林水産業が主要産業の新潟や長野で敗れた」1)

農業はコメの自由化であるTPPによって、日本の農家の被害は深刻です。アメリカ産のコメが50万トンも流れ込んで来るからです。高齢化、後継者不足、減反政策により瀬戸際に立たされている農家にとり、高い種籾代、肥料、機械代を支払うと利益が残りません。その上、アメリカから5000円(60kg)の安いコメが入ってきたら、コメ作りはだれもしなくなります。

筆者が昨年、サイクロン被害のバヌアツ、大地震のネパールに訪問した際、食べた主食はコメでした。コメの食文化の国では日本人は水を得た魚のようです。ボランティアをするにもコメを食べないと力が出ないように思えたりします。時代が変わっても、コンビニで販売されるおにぎりはコメの味の良し悪しが販売実績につながります。コシヒカリ、ササニシキ、ツヤヒメなどの味に関して、老若男女に関係なく識別できる味覚は日本人には備わっているからです。

近年、日本の食卓はアメリカ産の肉、小麦、野菜などで覆われています。つまりアメリカ人のために日本人は会社で汗水流して労働することになります。日本は工業文明を大切にして、輸出する車などが中心になり、日ごとにイネを育てる農耕文化をすたれさせています。

2011年の震災から、神戸国際支縁機構はイネ・コメに取り組むようになりました。田んぼで収穫した無農薬、有機、天日干しのコメを宮城県石巻市渡波の住民に食していただくとうり収穫祭を開いてきました。収穫祭には海の手、牡蠣、森の鹿肉を添えて提供しようとしたが、シカ肉は食べたくないという反発がありました。かつて縄文時代には、狩猟でシカを食べていたことは歴史で証明されています。

なぜ東北の人たちはシカをいただかないのか理由を尋ねますが、明確な答えがありません。4年目、田植えの際、神事を司る伊去波夜和氣命神社天國籠篁の唱える詔を聞いて気づかされます。天照大神は人民を「甕人草」と呼びます 2)。ちなみにイスラーム教、ユダヤ教、キリスト教では、人民を「迷える羊」と表現します。皇室の祖先になる神、日本神話に登場する天照大神は瑞穂の国の長として祭事を行います。『日本書紀』の引用からコメと宗教の関わりについて無視できないことが伝わります。日本では、天皇がコメの祭司です。

キャプション 縄文カレンダー 富山県文化財埋蔵センター

肉食禁忌(きんき)

足利義満[1358-1408]は南北朝を一つにした室町幕府第三代将軍でした。義満は天皇の権威を奪って、武家の社会にしようとしました。しかし、義満であってもできないことがありました。新嘗祭という米を中心とする農耕の神祀です。天皇の祭祀権を奪うことができませんでした。コメを日本人の代表として神様に捧げる儀式です。天皇は仏教が日本に入ってきた時、肉食を禁ずる法令を出しました。仏教の殺生を禁ずる思想に基づきます 3)。

キリスト教が日本に定着しなかった理由は、コメを軽んじたからです。札幌農学校の初期に着任したW.S.クラークにしても、酪農、畑を強調して、コメは北海道に不向きと排除しました。しかし、

コメの味を知った日本人は北緯 25 度の地においてもコメの栽培に忍耐強く挑戦し、成功しました。

コメと日本人は切っても切れない関係です。戦後、お米は太るという認識は間違いです。精白米を科学的に分析すると、77.1%が炭水化物、水分が 15.5%、タンパク質 6.1%で、脂質は含んでいません。したがって、パンよりお米の方がダイエットには向いています 4)。「重ね食べ」はお米が太る原因ではありません。

日本が生き残るには、環境保全や災害防止のために水田を見直し、お米と水田のある環境を子どもたちの世代へと手渡ししましょう。

1)「毎日新聞」(2016 年 7 月 11 日付)。宮城県石巻市の亀山^{ひし}市長は 7 月 10 日投票に向けた参院選について述べました。与党幹部などが訪問し、集票目当ての論戦が過熱し、震災後の「地方創生」について「争点になっていない」こと、議論が置き去りになっていると批判しました。「石巻かほく」(2016 年 7 月 8 日付)。

2)『古事記(上)』(次田真幸 国宝社 1994 年 61,65 頁)。

3)「古代日本の動物^{ひし}供犠と殺生禁断—農耕儀礼と肉食禁忌をめぐって—」『東北学』3(原田信男 2000 年)。仏教の十戒の第一律「不殺生戒」(いかなるものであれ、故意に生命を殺傷しない)。「人間でも動物でも、命を大切に死を重くみることに違いはない)。天武天皇五年(676 年)は諸国に「肉食禁止令の詔」と「^{ひし}放生令」を公布。放生とは、捕った魚や鳥など逃がす行為。

4)『おいしいごはんを食べよう』(森谷敏夫共 兵庫県米穀事業協同組合 2010 年 28 頁)。

キャプション お米を作る水田は、周囲の環境を守るうえでも大切な役目を果たしています。稲は光合成をすることで、地球温暖化の 主の御名を賛美いたします。地球温暖化の主要な原因である CO₂を吸収し、酸素を供給して空気や水をきれいにしたり、水田はたくさんの生き物のすみかになったりしています。水田はやさしい地球環境づくりにも役立っているのです。

キャプション 日本学術会議『地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的機能の評価について(答申)』(2001 年 11 月より)

その十三 一人で立ち向かう

季刊誌「支縁」No.21 (2017 年 11 月 10 日 4 頁)。

東北が生んだ偉大な器に宮沢賢治[1896～1933]がいます。賢治は「災害」について本を書いていません。興味深いことに、生まれた年は 1896 年です。生年に「Tsunami 津波」が世界共通語として定着するきっかけになった「明治三陸津波」がありました。2万 1915 人の死者は今でも津波の被害者の最高数です。日本で「三陸」として知られるようになったのもこの時以降です。賢治が死んだ年、1933 年に「昭和三陸代津波」がありました。賢治の生涯は災害の年に始まり、災害の年に亡くなりました。賢治が 3・11 の時、生きていたらどんな行動をとったのでしょうか。「一人づつづつかって火のついたやうにはげまして行け」宮沢賢治『春と修羅 第三集』と記しています。徒党を組んだり、組織でとか、みんながやるから自分も行動を起こすタイプではありませんでした。ですから、ボランティアが全国からやってきたら、ゼッケンを付けさせ、9時から5時まで画一的にどこどこにと割り振るような「官」の発想や、被災現場の地理をよく知らない自衛隊、メルトダウンを起こした原発に対して、「一人」で噛みついたにちがいないと考えます。

機構は、被災地で傾聴ボランティアを通じて、家族の分断、独居に接しました。「無力」を思い知らされます。ともすると、「ニヒリズム」(虚無主義)に陥ります。「どうぞ無駄よ」と無気力な反応が一般的です。しかし、ボランティア道とは、「無力」に思えるところが分かれ目です。

「共感」する動機が基本です。たとえドロ出し、がれき処理などができなくてもいいのです。不条理な死、孤独、不安に対して、感情移入することはだれでもできます。

「共感」し、「共苦」することに「一人」で立ち向かうように賢治はすすめました。

キャプション 『石巻かほく』つつじ野⑥ (2017年10月30日付)。

その十四 災害大国

季刊誌「支縁」No.22 (2018年2月1日 4頁)

災害大国日本でいつも後手に回って復興にとりくんでいないでしょうか。

今年になって、被災地である宮城県石巻市^{おしか}牡鹿半島、フクシマ、熊本、大分地震などへの復帰は2割というニュースもあります。

それぞれの復興の在り方を同じ土俵で論じることはできません。被災地の復興の立ち遅れに接していると、日本の未来図に希望を見出せません。共通しているのは過度の職住分離が進むことによって、暮らしの利便性が悪くなっていることです。たとえば、津波によって水没して消えた故郷である宮城県石巻市長面^{ながつら}の住民は今も仮設住宅住まいです。狭く、粗末な作りのため、決して快適な居住空間ではありません。しかし、「高台移転、職住分離」というルール^{かきむ}によって牡蠣剥き工場など仕事場は長面にできました。通勤のため車で1時間ほどかかります。まさに大都会と同じように「痛勤」です。復興において決められた物差しによって被災者は困惑してしまいます。住民たちが決めたのではなく、上からの押しつけです。津波再来を考慮しているかのように見えていますが、そうではありません。先に「防潮堤」ありきです。約7m近くの防潮堤を建てる場所は危険区域とされました。まだ住める住居も解体せよ、とお達し出ます。解体費用も自己負担なので住民は怒っています。1

長面から約3.9キロ離れた大川小学校(海拔9.7m)でも高さ8.6mの津波で84名のいのちが消えたのです。無用の防潮堤でだれが益を受けるのでしょうか。白砂青松^{おっぱ}、追波川沿いの道路が夕日に映えており、牡鹿半島から帰路、どれほど美しかったかと故阿部捷一支所長は語っておられました。2 自然の光、きらめき、風景は郷土を愛する大切な原像です。

無機質な防潮堤で東北地方が元気になるわけありません。セメント会社だけ儲かる政治家の野心に黙っていいものでしょうか。

「復興」とは人の暮らせない「箱モノ」建設になってはいけません。コンクリートは海の水質も変えてしまいます。海に生きる地元の人たちは「泡が出る」とぼやきます。養殖にダメージを与えるからです。

阪神・淡路大震災以降も神戸市長田区の「アスタくにつか」建設コスト高騰のツケを被災者が負担させられました。現在、商店街はゴースタウンとなっています。3 行政がもう少し待つようにと言った震災から15年後にできたマンション「宝塚第3コーポラス」に入居者がほとんどいません。行政が決めてやると住民不在の予算の無駄遣いに終わります。

自然環境との共生を無視すると、大都会への若者流出に拍車をかけます。通勤に時間がかかる東京スタイルを被災地に持ち込んでよいものでしょうか。震災失業、二重ローン、被災による破産は生きる喜びを奪ってきました。被災地でも共稼ぎは当たり前、託児所、保育所に乳児の時から、

預けて子育ては教育家でない素人である他人任せ、核家族、墓も永代供養のため破棄では、コミュニティは破壊します。

家族関係もアジア諸国の中で一番希薄になっていないでしょうか。みんなで助け合う社会も過去のものになりつつあります。人は被災後も生活していかなければなりません。個々の一人ひとりによって震災で遭遇した傷跡は異なります。役人は同じ処方箋などあり得ないことに気づかず、十把じっば一絡ひとからげにルールを押し付ける体質があります。復興マンションに入っても、避難所、仮設住宅の隣人とのつながりがなくなったりします。見た目からは判断できません。隣近所との疎遠や、買い物に行くことができない、惣菜を買うおカネがないなどは外からはわかりません。自立の基盤が未回復な人たちは孤独死に追い込まれます。2015年、宮城県石巻市吉野町に復興住宅ができました。しかし、158戸の内、翌年には近所づきあいもない重い鉄の扉の中で9人が孤立死していました。

4

未来について描けない復興ビジョンなら希望がありません。一人ひとりのいのち、暮らし、喜びがもたらされる「こころ」を大切に作る復興が求められます。

- 1 季刊誌『支縁』No.19(2頁 神戸国際支援機構発行 2017年5月)
- 2 拙稿「牡鹿半島 聞き取り調査(1)追波川大川小学校」(2011年7月2日)
<http://kosokobe.jp/article/proposal/471/>
- 3 拙稿『クリスチャントゥデイ』(2018年1月17日付)
- 4 『読売新聞』(2016年6月27日)。